

効果報告レポート

【事業者名】

株式会社 Study Valley

【ツール名】

Time Tact

【ツールの機能分類】

発展的な学び

2022年2月



「探究」にフォーカスした 社会と繋がる教育



"What"や"How"ではなく、"Why"を起点にした学習方法の構築。
半自律的に勉強したくなる**"主体性・モチベーション"**を醸成を目指します。

「なぜ」勉強するのか

外的要因

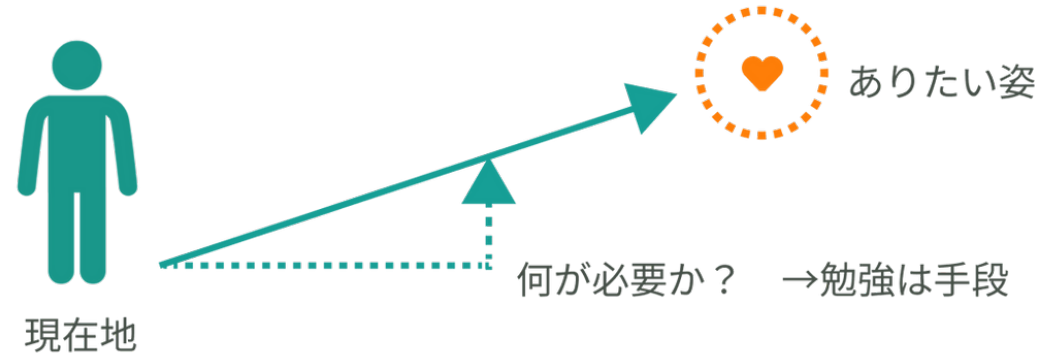
強制
教材
AI

Adaptive Learning

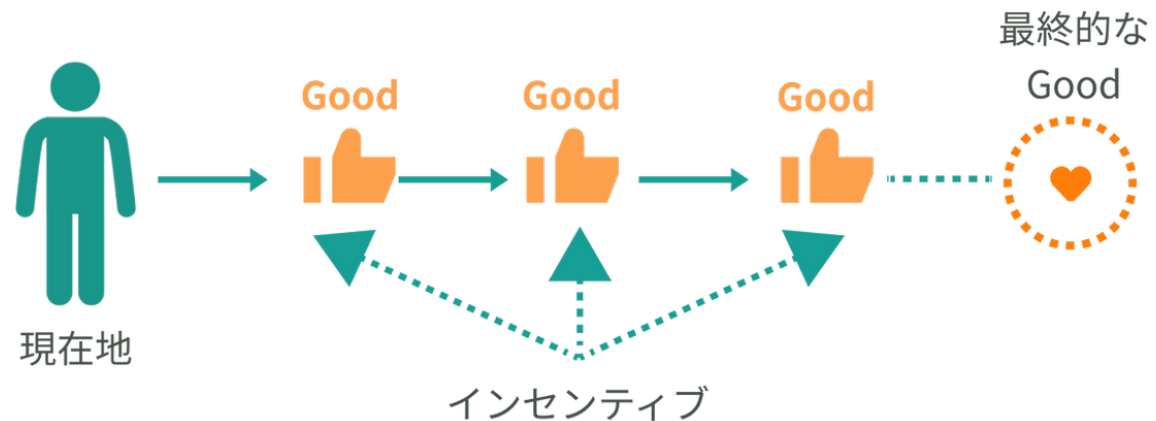
内的要因

モチベーション
インセンティブ
目的意識

中長期的モチベーション：ありたい姿の明確化



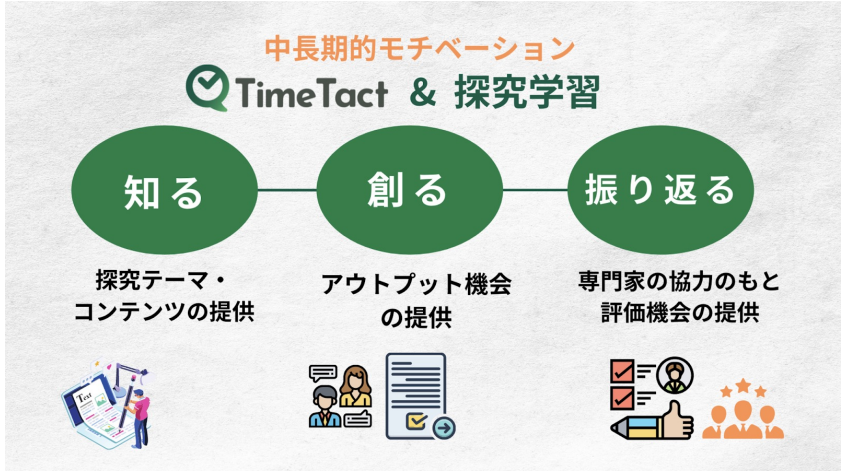
短期的モチベーション：勉強することのメリット



■ EdTech ツールの概要

「知る」「創る」「振り返る」を複数回繰り返すことで、「総合的な探究の時間」の学習プロセスが充実。表面的で終わらない本質的な探究能力を醸成することを目指します。（利用料：12,000円/年/人※税抜）

ツール概要



探究学習を深める各種ツール
機能をプリセット

外部向けのポートフォリオ作成機能

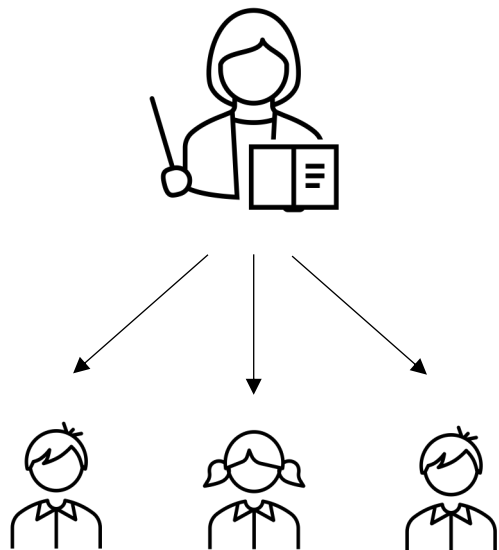


TimeTactオリジナル探究カード



■ 学校等教育機関の抱える課題

学校現場では、「総合的な探究の時間」を推進する上でさまざまな課題が顕在化しております。



インプットが中心
成果発表も学内に閉じた状態

課題①

再現性

背景

- ・決まった先生しか対応できない状況に陥ると、そもそも授業が進められなくなり、欠勤・異勤の際に立ち行かなくなる。
- ・新たな担当の先生に心身の負担を強いることになる。

課題②

労働時間

背景

- ・各教科の授業準備に加えて、授業の準備時間が必要。
- ・生徒のテーマ設定数に比例して、授業準備の時間が増える。

課題③

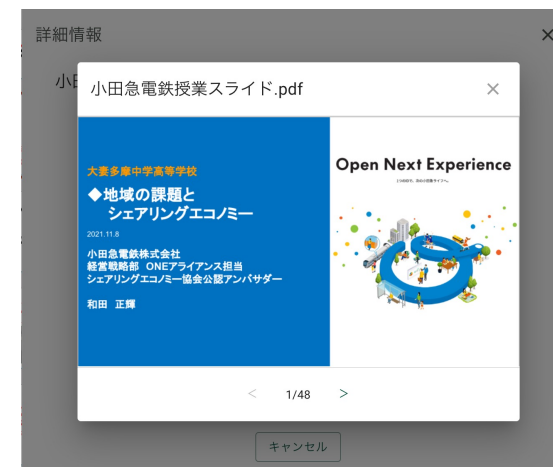
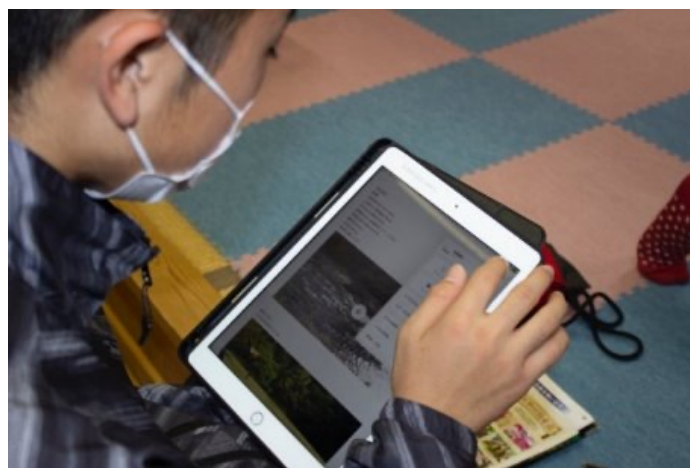
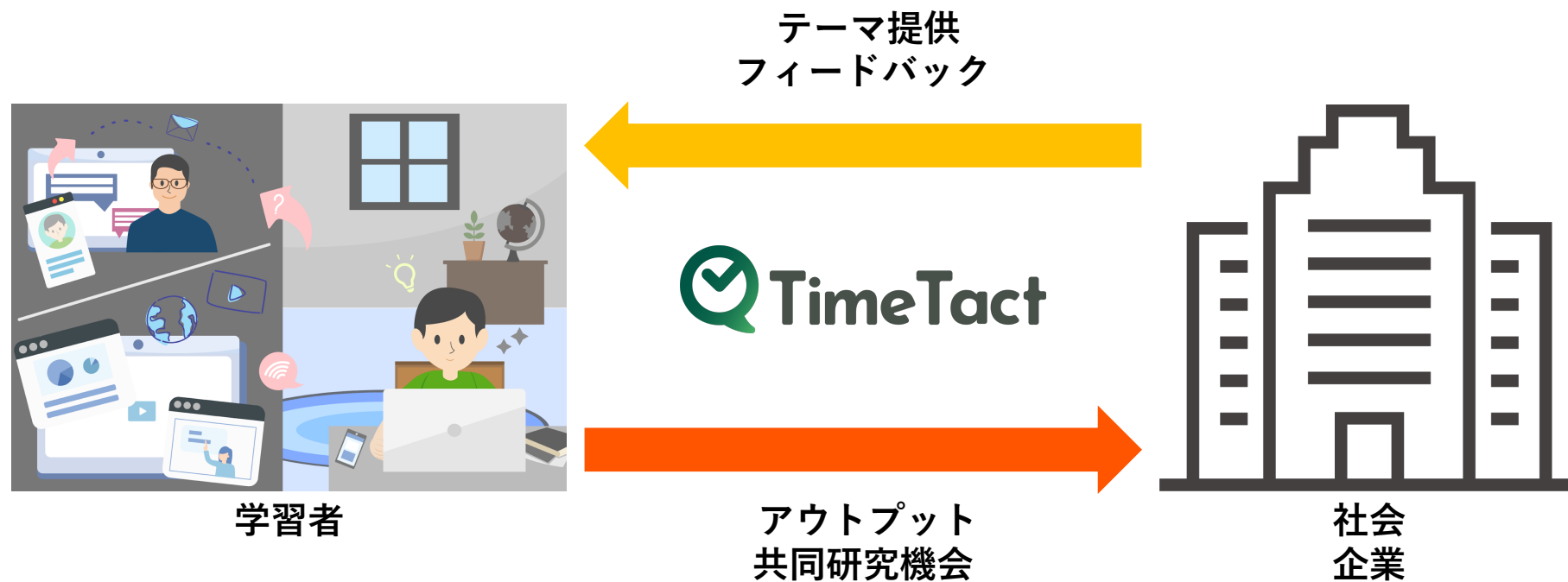
評価

背景

- ・ペーパーテストで測ることは困難。
- ・学習のプロセスも含めた評価が必須であるが、成果物の出来栄による評価に陥りがち。また、教師によって偏りも生まれやすい。

■ EdTech導入補助金2021における活用事例

学校と社会を接続することで、「総合的な探究の時間」の授業推進における課題解決を図りました。



「総合的な探究の時間」の各プロセスごとに各種機能を活用して、学校と社会の連携を促進。

課題の設定

情報の収集

整理・分析

まとめ・発表

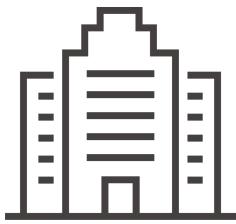


学習者

社会課題を身近な存在を通じて理解することで、学習者の興味関心を醸成。また、提供されたテーマを活用することで、課題がより具体的に設定することができた。

例) 小田急沿線沿いの課題について、小田急電鉄様の取り組みと共にTimeTactを通じて提供。
(教材/動画提供)

自社の取り組みを背景も含めてTimeTactを通じてインプット/テーマだしを実施。



社会
(企業/大学)

Tim Tactを通じて探究学習を推進。各種機能を活用して、成果物を作成。また、途中成果物に対してフィードバックをもらうことでこれまでに無い視点や考えに気づくことができ、探究学習をより深めることができた。

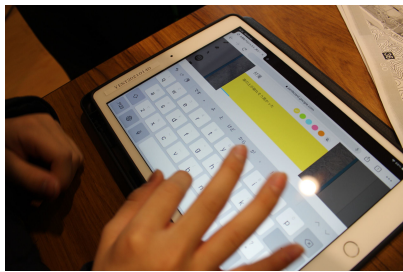
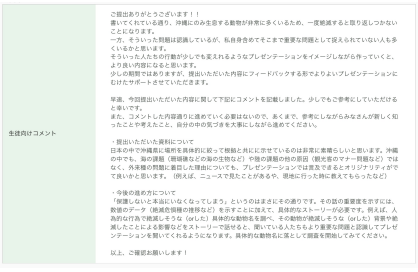
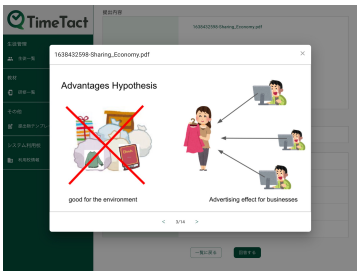
例) 途中成果物に対して、各テーマに応じたトピックスや社会の取り組み、専門的な知識のフィードバックを実施。

生徒の途中成果物に対してTimeTactを通じてフィードバックを実施。

作成した探究成果物や発表をTimeTactを通じて、社会へ提出。社会からフィードバックをもらうことで、新たな問いが立ち、次の探究学習に繋げる。

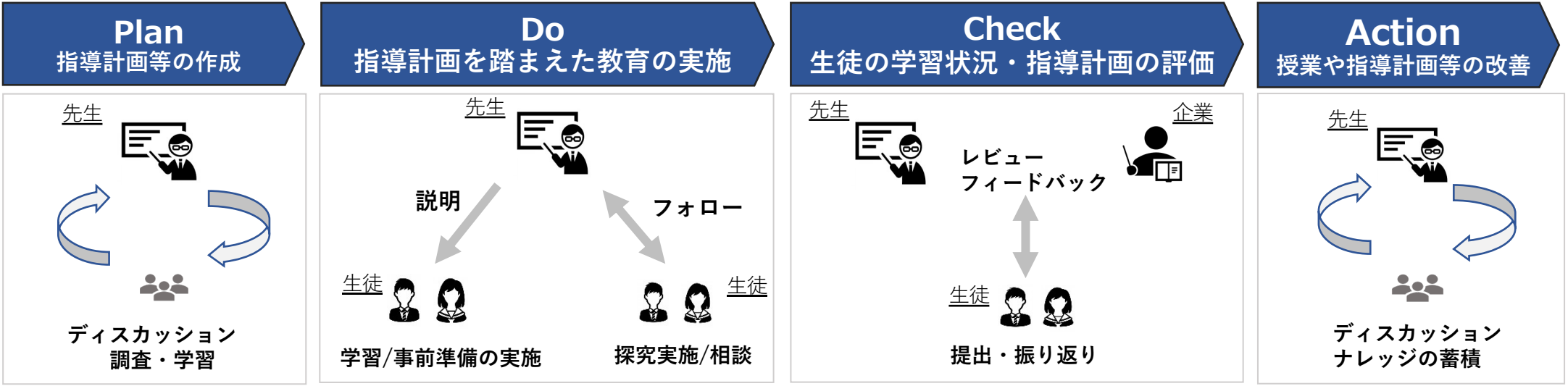
例) 企業から提供頂いたテーマに対して、学習者が具体的なアイデアを提案。実現可能性やアイデアのブラッシュアップを含めたディスカッションを実施。

生徒の成果物や発表に対してTimeTactを通じてフィードバックを実施。



説明: タイトル	この探究学習の目的やテーマについて
説明: 質問文	探究学習の目的やテーマについて、説明や問いを提示する文を記載します。この文を基に探究学習を進めます。また、この文を基に探究学習を進めます。また、この文を基に探究学習を進めます。
説明: 回答	回答文
説明: 回答文	回答文
説明: コメント	コメント

■ 補助事業において実施したサポート内容



TimeTact 利用する機能	授業計画作成機能	教材配信機能 探究レポート機能 探究成果物作成機能 参考文献記録機能	提出物機能 ルーブリック機能 (coming soon...)	クラウドの活用
----------------------------	----------	---	---------------------------------------	---------

- | | | | | |
|--------|---|--|---|--|
| サポート内容 | <ul style="list-style-type: none">・ 外部連携先（大学/企業等）の開拓、折衝の代行/サポート・ 授業計画の策定サポート・ 授業担当の教員への授業内容の共有のサポート | <ul style="list-style-type: none">・ 最適な教材のご提供とワークシートの作成・ 探究学習の進捗管理・ 企業講演/ワークショップの実施・ 各担任の先生の疑問や質問への個別対応・ 成果物の作成フォロー・ 毎時間の授業サポート | <ul style="list-style-type: none">・ 探究成果物の添削・ 外部連携先（大学/企業等）への成果発表・ 外部連携先（大学/企業等）からのフィードバック・ 校内の探究成果発表会サポート | <ul style="list-style-type: none">・ クラウドのデータを活用した授業振り返りサポート・ 評価基準の作成、共有 |
|--------|---|--|---|--|

■ EdTech導入補助金2021における導入実績

導入校A	導入校 導入目的	大妻多摩高等学校/高校2年生（設置者：学校法人大妻学院） 17アカウント（教員3アカウント/生徒14アカウント） ・テーマ設定の多様化 ・地域企業（小田急電鉄株式会社）との連携 ・高等学校カリキュラムの「総合的な探究の時間」への準備	
導入校B	導入校 導入目的	矢祭町中学校/中学1～3年生（設置者：矢祭町教育委員会） 40アカウント（教員4アカウント/生徒36アカウント） ・遠隔地における探究学習モデルの構築 ・外部（早稲田大学）との連携 ・GIGA端末の活用モデル創出（Google for Education 連携）	
導入校C	導入校 導入目的	横浜翠陵中学校/中学1～3年生（設置者：学校法人堀井学園） 147アカウント（教員10アカウント/生徒137アカウント） ・探究成果物の質向上 ・外部企業との連携 ・中学生向け探究学習ツールの導入	

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

	指標	検証内容	考察結果概要
定性指標	生徒のモチベーション	社会連携、 <u>教員・親以外の大人(=斜め上の大人)と関わる</u> ことで期待できるモチベーションの向上	探究学習に取り組む姿勢が 大幅に向上 した。探究の時間が楽しみになる生徒も増加した（後述）
	生徒のアウトプットの質	社会連携により、探究のPDCAサイクルのうち、 <u>特に学校現場では難しいC部分の質担保</u> による成果物の質の向上	振り返る機会を意図的に設定するとともに、専門的なフィードバック機会により 大幅に探究成果の質が向上(後述)
	評価プロセス(再現性)	可視化が難しい探究学習プロセスにおいて、 <u>プロセスをEdTechツールに格納</u> することによる再現性の検証	調べ学習等、途中プロセスについてもTimeTactに格納することで、 事後振り返り、評価の際定量把握が可能に
定量指標	教員業務負荷	授業準備、授業実施、その他学外連携のための <u>教員諸業務の業務負荷</u> を時間で算出し、軽減効果を測定	教員一人あたり 10時間/週 の業務量削減を実現。ツールの利用効果と、社会連携支援により授業の質は維持
	生徒のアウトプットの量	学外からのフィードバックが得られる、というインセンティブとオンラインによる <u>日常接点を軸とした量の計測</u>	探究論文等、これまで数行であった成果物が大幅に改善。 最大で650%前後の量の改善に寄与
	GIGA端末利活用	端末の利活用状況を計測し、 <u>探究学習におけるGIGA端末利用メリット</u> を評価し、今後の定着可能性を検証	GIGA端末の教科学習外の利用用途を創出することで利用率が大幅に向上。 利用時間数は平均400%アップ

上記結果により、本件補助金により価値検証の結果2/3校が継続契約意向(1/10時点)

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

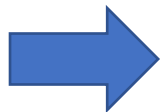
①モチベーションの向上

→ 1回目の提出では、数行しか書くことが出来ていなかった生徒が、TimeTactを活用して外部からフィードバックを得ることで**数十行**の論文を書くことができるようになった。

1回目（10月）

第1章 これから解決策を考えたいと思った目標や課題

僕は陸上部に入っているのも、もっと足が速くなりたいので、こういう動画を見て、自分の動きの改善をしようと思った。また、トレーニングの仕方にも、足が速くなるコツがあると思うのでこの動画を選んだ。これはわかりやすいし、内容もまとまっているので、みる人にはいいと思う。興味を持ったきっかけは、足が速くなり、後体力もつくトレーニングの仕方『筋トレ』を探究したいと思っている。また、長距離走に耐え抜く体力の付け方も知りたい。自分の走るフォームの形『バランス』の改善方法など。スタートダッシュの早く走るコツなどを知りたいと思ったから。



2回目（12月）

第1章 これから解決策を考えたいと思った目標や課題

僕は陸上部に入っているのも、もっと足が速くなりたいので、こういう動画を見て、自分の動きの改善をしようと思った。また、トレーニングの仕方にも、足が速くなるコツがあると思うのでこの動画を選びました。これはわかりやすいし、内容もまとまっているので、みる人にはいいと思いました。興味を持ったきっかけは、足が速くなり、後体力もつくトレーニングの仕方『筋トレ』を探究したいと思っています。また、長距離走に耐え抜く体力の付け方も知りたいと思うし、自分の走るフォームの形『バランス』の改善方法などや、スタートダッシュの早く走るコツなどを知りたいと思ったからです。それと、僕はあまり体力がないので、体力をつけたいと思います。そして、こSDGsの開発目標四番『質の高い教育をみんなに』の問題点は初等教育分野で一定の改善が見られましたが、それ以降の中等教育、高等教育、さらに初等教育以前の就学前教育については依然として就学率が低い状態が続いています。特にサブ・サハラ諸国、南アジア諸国、中近東・北アフリカ諸国における中等教育や、それ以上の教育への就学率は2015年時点で50%にも達していません。僕はそれを聞いて驚きました。どこに驚いたかというところ、サブ・サハラ諸国、南アジア諸国、中近東、北アフリカ諸国などの国が就学率が少なすぎることに驚きました。中等教育以上の段階になると、初等教育とは異なっていて、制度的に有償で提供している国が多くなるので、進学は家庭の経済的状況また国家の経済状況に大きく影響されると言えると思います。つまり、経済的水準（所得水準）の高い家庭または国家ほど、中・高等教育への就学率は高くなる傾向があるとされています。たとえば、経済水準の低い国々における中等教育就学率は30%前後、高等教育への就学率はわずか数%に留まっているのに対して、経済水準の高い国々における中等教育就学率は90%以上、高等教育の就学率も70%以上になっています。これを見ても、中等教育及び高等教育における就学率は、経済水準の格差がそのまま教育格差として表れているのが今の現状です。それを踏まえて僕は世界の人に質の高い教育を受けられるようになったらいいなと思います。このgoalを選んだ理由は、僕たちは質の高い教育がなくても世界の貧困な国では僕たちのような質の高い教育ができていないと思うので世界全員の人が質の高い教育を受けられるようになったらいいなと思ってこのgoalを選んだ理由もあります。さまざまな貧困な国の人も早く走りたいとか、スポーツが得意になりたいとか思っていると思うので、そういう意味も含めて選びました。僕は前から『スピリット』という走り方に憧れていて、ウサインボルト選手もスピリットという走り方を使っているの、ボルト選手を参考にいつもテレビで見っていました。

しかし、テレビで走り方をみるだけではできるようにはならないと思いました。僕だけではなく、貧困な国も含めて個人的に好きな走り方を極めたい。などという人もいて、なのに貧困なせいで質の高い教育を受けられない。などということが起きたらもったいないので、全国の人に、走り方も勉強も含めて質の高い教育を受けたいなと思ってこの目標を選びました。これが一番ノミア僕の望みです。僕は陸上部を三年間今現在やっています。そして大会では見事一位という成績を取ることができたので、その三年間の練習というのはとても役に立ちました。そして、体力も陸上歴一年より比べて格段と上がったし、長距離走もきついですけど、最後まで走ることができています。そのような練習や、体力づくりなどをすることができているのは質の高い教育ということにつながっていると思います。でも、貧困な国の人は一部の地域によっては、僕のような質の高い練習も、体力づくりもすることができないと思っています。練習だけではなく、色々な知識を持っている友達なども話したりすることで、トレーニングのもっと効率の良いやり方。コツ。常にどのような位置で走るかなど。を教えてくれる友達を持つことも大切です。しかし、貧困な国では、友達と話してもなかなか良い情報が入ってこないということが必ず起きると思います。なぜかというところ、貧困な国である以上、友達も貧困のせいで、言い換えれば質の高い教育が受けていないせいで、色々な情報が知れていない。ということが起きていると思うからです。そのような状態で友達を作れていても、頼りになる情報を共有することはできないと思います。こんなことが起きないように質の高い教育を全国にさせてあげたいということで、このgoalを選んだ理由になります。そして、質の高い教育を受けられるようになったら、その受けられるようになった人々も夢を持って、将来的にはスポーツ系の選手などになったりして、色々な良いことが広がっていくのではないかと僕は思います。

将来なりたい姿（住みたい社会）とそれを実現させるためのSDGsについて考える

・どんな人になりたいか、どんな社会に生きていたいと思うか、それはなぜか

う・なぜこの開発目標を選んだのか、選んだ理由

・どうして興味をもったのか、きっかけ、自分の経験

・実現させるための具体的な方法や提案は第4章でまとめるのでここでは書かなくてよい。

《第1章》 9月24日（金）

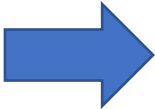
②探究成果の質向上

→TimeTactを活用して外部からフィードバックを得ることで、「調べ学習」に終始することなく「課題解決のアイデア」まで具体的に提案することができるようになった。

1回目（10月）

第1章 これから解決策を考えたいと思った目標や課題

私はこれから女性が笑顔で暮らしていける世界にしたいです。
なので、私はSDGsの10番「人や国の不平等を無くそう」を選びました。なぜ、この番号選んだかと言うと、「どうして、働いてるのは同じなのに、女性のお給料が少ないのかな？」と疑問に思ったからです。
SDGs10番には、
・各国で、所得が低い方から、40%の人々の所得の増え方が国の全体の平均を上回るようにし、そのペースを保つ。
・年齢、性別、障害、人種、民族、生まれ、宗教、などにかかわらず、全ての人が、社会的、経済的に取り残されないようにする
・差別的な法律、政策やならわしを無くし、適切な、法律や政策などによって人々が平等な機会を持てるようにし、人々が得る結果についての格差をなくす。
などの目標があります。
その中でも私は、女性差別を無くしたいと思いました。
近年、男女という性別の違いによる差別だけでなく全ての人が平等でなければならぬという考えが浸透してきています。
しかし、今でも、家事や育児は女性の仕事であるといった考えを持つ人も多く、女性に対する差別や偏見は残っています。
そのほかにも代表として3つほどあります。
1つ目は、早期結婚や強制結婚です。これは、女性差別の事例の1つとしてあげられます。2019年の時点で世界中の18歳未満の女性の約6億5000万人が18歳の誕生日を迎える前に結婚をしていて、世界で女の子のうちに結婚する人数は毎年1200万人と言われています。
早期結婚や強制結婚は主に貧困が原因で、人身取引により金品を交換して生活をしているのです。
2つ目は、男女における賃金格差です日本は2015年時点で男性労働者の所定内給付額を100%としたときの、女性労働者の所定内給付の値は72、2%でした。諸外国のデータでは、2014年時点でスウェーデンが88、0%、フランスが84、9%、アメリカが82、5%と、他の国と比較しても日本の男女の賃金格差が多いことがわかります。
なぜ、賃金格差が起こってしまうのでしょうか？
1つ目は、国によって、男女の教育期間の差による雇用範囲の減少です。2つ目は、結婚や出産、育児、子育てなどのライフイベントの影響を女性の方が受けやすい現状になっているからです。そうすると男性より仕事が無断続的になってしまい賃金格差が起こるのです。
3つ目は、企業規模の違いです。
男性は比較的高い大企業に多く、女性は、比較的小規模の小さい会社で働いている人が多いことから賃金格差につながってきます。
3つ目は、女性に対しての暴力、ドメスティック・バイオレンスです。



2回目（12月）

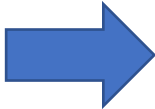
第2章 目標や課題に関する現状と取り組み

まず初めに、「男女間賃金格差」についてです。
日本は、先進国の中でも「男女平等」が遠い国です。男性と女性の間で大きな収入格差があることが、ジェンダーギャップを広げています。
主要先進国におけるフルタイム労働者の男女間賃金格差（2017年）

国	賃金格差 (%)
日本	24.5
アメリカ	18.2
カナダ	18.2
イギリス	16.5
ドイツ	15.5
フランス	9.9
イタリア	5.6

このグラフを見てください。これはG7と呼ばれる主要先進国の中での、「男女間賃金格差」のグラフです。日本が最も高いことが読み取れます。さらに、世界経済フォーラムが公表した、「ジェンダー・ギャップ指数2018」では、149ヶ国中110位と世界の中で見てもらい低い水準になっています。

順位	国名	指数
1	アイスランド	0.951
2	ノルウェー	0.935
3	スウェーデン	0.921
4	フィンランド	0.911
5	ニュージーランド	0.899
6	オランダ	0.894
7	ニュージーランド	0.891
8	アイスランド	0.798
9	アイスランド	0.796
10	アイスランド	0.789
11	アイスランド	0.779
12	アイスランド	0.776
13	アイスランド	0.774
14	アイスランド	0.771
15	アイスランド	0.771
16	アイスランド	0.771
17	アイスランド	0.771
18	アイスランド	0.771
19	アイスランド	0.771
20	アイスランド	0.771
21	アイスランド	0.771
22	アイスランド	0.771
23	アイスランド	0.771
24	アイスランド	0.771
25	アイスランド	0.771
26	アイスランド	0.771
27	アイスランド	0.771
28	アイスランド	0.771
29	アイスランド	0.771
30	アイスランド	0.771
31	アイスランド	0.771
32	アイスランド	0.771
33	アイスランド	0.771
34	アイスランド	0.771
35	アイスランド	0.771
36	アイスランド	0.771
37	アイスランド	0.771
38	アイスランド	0.771
39	アイスランド	0.771
40	アイスランド	0.771
41	アイスランド	0.771
42	アイスランド	0.771
43	アイスランド	0.771
44	アイスランド	0.771
45	アイスランド	0.771
46	アイスランド	0.771
47	アイスランド	0.771
48	アイスランド	0.771
49	アイスランド	0.771
50	アイスランド	0.771
51	アイスランド	0.771
52	アイスランド	0.771
53	アイスランド	0.771
54	アイスランド	0.771
55	アイスランド	0.771
56	アイスランド	0.771
57	アイスランド	0.771
58	アイスランド	0.771
59	アイスランド	0.771
60	アイスランド	0.771
61	アイスランド	0.771
62	アイスランド	0.771
63	アイスランド	0.771
64	アイスランド	0.771
65	アイスランド	0.771
66	アイスランド	0.771
67	アイスランド	0.771
68	アイスランド	0.771
69	アイスランド	0.771
70	アイスランド	0.771
71	アイスランド	0.771
72	アイスランド	0.771
73	アイスランド	0.771
74	アイスランド	0.771
75	アイスランド	0.771
76	アイスランド	0.771
77	アイスランド	0.771
78	アイスランド	0.771
79	アイスランド	0.771
80	アイスランド	0.771
81	アイスランド	0.771
82	アイスランド	0.771
83	アイスランド	0.771
84	アイスランド	0.771
85	アイスランド	0.771
86	アイスランド	0.771
87	アイスランド	0.771
88	アイスランド	0.771
89	アイスランド	0.771
90	アイスランド	0.771
91	アイスランド	0.771
92	アイスランド	0.771
93	アイスランド	0.771
94	アイスランド	0.771
95	アイスランド	0.771
96	アイスランド	0.771
97	アイスランド	0.771
98	アイスランド	0.771
99	アイスランド	0.771
100	アイスランド	0.771
101	アイスランド	0.771
102	アイスランド	0.771
103	アイスランド	0.771
104	アイスランド	0.771
105	アイスランド	0.771
106	アイスランド	0.771
107	アイスランド	0.771
108	アイスランド	0.771
109	アイスランド	0.771
110	アイスランド	0.771
111	アイスランド	0.771
112	アイスランド	0.771
113	アイスランド	0.771
114	アイスランド	0.771
115	アイスランド	0.771



3回目（1月）

いつでも簡単にアプリをひらけば色々な相談会社に繋がられるようにしたいです。
まず、いくつかある相談会社を選択します。
そして、電話相談にするかメッセージで相談するかを選びます。
次に、個人で相談するか、グループ相談にするかを選びます。

自分のアイデアを手書きの図を使って説明し工夫している

すべてテキストベース

グラフの画像を挿入し、見やすく工夫した

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

③教員業務負荷の軽減
→授業準備と生徒フォローにかかる時間が大幅に削減。また、幅広いテーマを扱うことが可能になった。

1回/週の授業あたり (先生：1名・生徒：40名)		導入前		導入後		同じテーマ数を 扱うとすると・・・
授業準備	テーマ数/クラス	10テーマ	先生が ・テーマの下調べ ・教材/ワークシート準備 ・参考文献リサーチ	40テーマ	Study Valleyからの ・授業計画/内容の確認 ・教材/ワークシート確認 ・提示参考文献の確認	40テーマ
	時間/テーマ	0.5h		0.1h		0.5h
	時間/クラス	5h		4h		20h
生徒フォロー	人/クラス	40人	先生が ・進捗状況確認 ・フィードバックの準備 ・フィードバックの実施	40人	Study Valleyからの ・進捗状況の共有確認 ・フィードバック内容確認 ・生徒への返却	40人
	時間/人	0.5h		0.1h		0.5h
	時間/クラス	20h		4h		20h
合計		25h		8h		40h

探究の質が向上した！

個別のフィードバックを受けることで、情報を整理し分析・推敲する方法を自分ごととして体験しながら学ぶことができています！また、生徒と距離が近い先生では気づきにくい客観的なフィードバックを定期的にもらえることで、一段階上の成果につながっています。

生徒の興味を引き出す探究に！

生徒の興味範囲はさまざま。科目ごとの専門家である先生が指導しにくい教科横断的な内容にも指導してくれるので、生徒も意欲的に取り組んでいます。

先生の負担が軽減された！

授業準備や汎用的な探究の指導に使っていた時間を、先生にしかできない指導（発表や進路指導など）に使えるようになりました。

先生の学びの機会ができた！

生徒向けに実施するワークショップや個別フィードバックを間近で見ることで、探究学習指導の方向性がわかりました。

急な変更にも柔軟に対応してくれるので助かる！

必ず専任のアドバイザーがついてくれるので、行事関連で急な授業変更があったとしても、柔軟に授業スケジュールの変更を相談できるのがありがたいです。生徒の理解度や進捗状況にも合わせて適宜相談できるのも心強いです。

登校が難しい生徒の学習のきっかけに！

学校に来ることが難しい不登校の生徒も、TimeTactではオンラインで学習を進められるので、家から参加してくれています。これまで対話したくても物理的にできない状況が続いていたので、意思疎通のための大きなきっかけとなりました。

■ EdTechツールの導入・運用における課題とその改善策

課題	背景	重要度	緊急度	短期的な改善策	中長期的な改善策
教員のITツールに対する利用頻度が低い。それに伴うCS工数の増大	生徒はツール利用頻度が高い一方、教員は通常業務過多状態であり、効率化に遅れ	高	低	CS工数を潤沢に割り当てることで、探究に関わる工程の大半を支援できる体制を構築	・利用による工数削減効果の定量提示 ・利用手順の簡略化等<u>UI/UX面の継続的な改善</u>
探究テーマの分散による社会フィードバック担当者の不在	期中導入のため、期初設定のテーマに対して後追いでテーマに該当する企業選定が必要になった	中	高	・テーマ出し等、課題設定時から支援することで、分散を抑制 ・生徒の興味関心にフィットする企業案件の獲得増	・大学や団体等、<u>専門的な知見からアドバイス可能な組織からの支援</u>の獲得 ・大学や団体におけるメリット提供のスキームの構築
システム利用時の環境の問題	パスワード忘れ等、システムを利用する上で重要な操作の誤り	低	中	・サポート体制やサポート内容に、ツールの利用だけでなく、前提となるインフラ環境整備等、各種IT環境の確認項目を追加	・セキュリティ面を担保した状態で利便性とトレードオフを顧みながら<u>最適なUI/UXへ継続的に改善</u>を実施(エラー内容の簡略化等)
CS人員不足	当初想定よりもGIGA端末の普及状態や、学校インフラの偏り等、CS工数が大幅に増大	高	中	・CS人員の補充 ・CS工程の項目化、型化による効率化 ・リモートサポート等遠隔地からの迅速的な対応体制の整備	・端末調達支援等、包括的なサポート体制の教科 ・<u>CS工数削減のための継続的なシステム開発</u>

■ 会社概要

社名

株式会社 Study Valley(スタディバレー)

資本金

35,000,000円(資本準備金含む)

代表者

代表取締役 田中悠樹 (タナカユウキ)

本社

〒134-0083東京都江戸川区中葛西 5-20-13 水戸ビル 2F

支社

〒820-0041 福岡県飯塚市飯塚 2 (開発拠点)

問い合わせ先: welcome@studyvalley.jp

事業内容

TimeTact の開発・運用

STEAMライブラリー (経済産業省) の構築・運用



外部認証



AWS EdStartに採択
(日本で2社目)



Googleテックパートナー
認証取得済



国際規格セキュリティ
認証取得済